



第31回四国作業療法学会へ参加して 四国内の作業療法士の“輪”を 広げましょう!

2022年2月26日(土)・
27日(日) Web開催



第31回四国作業療法学会 学会長
浅川 英則氏へのインタビュー(久病院)

取材全文：
第31回四国作業療法
学会へ参加して四国
内の作業療法士の“
輪”を広げましょう!

インタビューの
全文はこちら



参加申し込みはこちら

参加申込：
令和4年2月18日
(金)まで



今回の学会のテーマを「広げたい輪 深めたい和 四国の‘わ’～根源に還る～」にした背景について教えてください。

浅川学会長 今回の学会のテーマについてですが、そんなに難しく考えたわけではなく、「四国内の作業療法士のつながりや“輪”が広がったらいいよね」ということで、“わ”の字を3つ並べて、語呂良くしてみて、というような流れで、実行委員会で決まりました(笑)。この“輪”っていうのは、四国作業療法学会なので、作業療法士同士の輪、そこに他職種の方が来ていただけるのなら、その方々も含めて1つの輪になってつながることができれば良いなど考えています。

今回の学会の企画や内容の核となる部分は何ですか？

浅川学会長 今年、(一社)日本作業療法士協会が設立されて、55年を迎えました。現在の全国の作業療法士の有資格者数は約10万4000人で、私の免許番号が2万ぐらいなので、この22～23年で8万人程度も増えていきます。この間に作業療法の対象領域も広がり、介入の仕方など作業療法のプロセス自体の選択肢も増えてきたと思います。作業療法士の専門性も多様化している中、個々の作業療法が異なっているのか、正解は何だろうかとなりそうなものですが、私自身は、作業療法の根源さえブレなければ良いと思っています。様々な考え方や価値観を聞いたり、触れたりして、個々の作業療法の幅が広がることが大事なんだと思います。幅広く、多種多様でいい、それが作業療法だと思います。

浅川学会長にとって学会に参加するとはどういうことですか？

浅川学会長 私の中で学会とは、様々な分野の方々が集う場所であり、多くの方の価値観に触れることができる“場”だと捉えています。自分の職場だけではもしかしたら知識や技術が偏るかもしれませんが、自身の正解につながる材料というか、過程になれば良いと思います。様々な方の作業療法についての考え方や価値観に触れて、「良い刺激になった」と思う方もいれば、「全然、刺激がなかった」と思う方もいるかもしれませんが、それも1つ、自分を知るきっかけになる大切な過程だと思います。作業療法士は“人”と向き合う場面の多い仕事なので、様々な分野で頑張っている方々の価値観に触れることも大切だと思います。

LINE



士会からの
お知らせや研修会
のご案内をしています。
ぜひ登録をお願いします。

一般社団法人
高知県作業療法士会

会員数 766 名

(令和3年12月末現在)



巡回指導員として 参画して 02

竹村 すみれ氏へのインタビュー
(カラフル・ピース)



Webで詳しく

取材全文:
巡回指導員と
して参画して



実際の指導の場面について教えてください。

竹村氏 私は運動発達に対して助言をすることが多く、運動や遊びなどを通して発達に必要な要素をお伝えしています。例えば、生活場面でお箸が持てないことに関しても、様々な要因があり、お箸の練習をするべきなのか、それともまずは指の分離運動や握り動作から行うべきなのかなど、児童に応じた助言をしています。また、その児童に必要な運動要素を取り入れるために、先生方と一緒に園でできる遊びを考えるように支援や助言をしています。園でできる遊びを行うことで、取り組みがしやすくなるとともに、今後の変化点の把握がしやすくなると思います。

普段の業務で活かせることがあれば教えてください。

竹村氏 私の職場では、一人の児童に関わる頻度は週1回程度です。日々の臨床の中で、例えば、児童と指先の練習を行うことで、生活や遊びにどう繋がっているのか不安がありましたが、園に伺ったことで、訓練が実際の遊びや生活場面でどのように繋がっていくのか把握しやすくなりました。また、他の児童の遊びを観察することで、どのような体の動きを取り入れたらいいのかなど、次の支援に繋げるために何が必要であるのか明確にすることができました。

会員へメッセージをお願いします。

竹村氏 小児との関わりは難しい印象があると思いますが、私は作業療法士としての知識は同じで、遊びなどの生活場面が変わるだけだと感じています。現在、小児のリハビリテーションを実施している病院も増えてきていると思います。相談を受けることもありますが、実際に園に伺い、児童の日常を観ていただくことで、必要な支援内容がイメージしやすくなると思いますので、気軽に見学に来ていただきたいと思います(^^)

子ども発達支援部からのお知らせ

3月6日(日)に感覚統合理論にもとづく治療をテーマに研修会を開催します。発達障害児・者の支援に携わっているたくさんの方に参加していただきたいです(^^) また、巡回相談への同行や相談員としての登録を行う前に研修会に参加して学んでいただければと思います。巡回相談に興味のある会員だけでなく、参加希望の方はQRコードより、参加申し込みをよろしくお願いたします。

また、巡回相談の同行を希望される方は、下記メールアドレスに所属・氏名を記載の上、ご連絡ください。たくさんのご連絡お待ちしております(^^)
specialeducationkochiot@gmail.com https://onl.tw/vK1sS49



地域ケア会議に 参画して 03

弘瀬 さやか氏へのインタビュー
(リハビリテーション病院 すこやかな杜
訪問リハビリテーション事業所)



Webで詳しく

取材全文:
地域ケア会議に
参画して



地域ケア会議に参画しようと思ったきっかけや経緯を教えてください。

弘瀬氏 1. 職場近くの地域でどのような問題が起きているのかを知りたい。
2. ケアマネジャーや社会福祉士、医師など多職種の方々とのコミュニケーション場面を作りたい。
3. 他の職種の方がどのような考え方をしてプランを立てているのかを知りたい。
上記の3つが地域ケア会議に参画しようと思った理由でした。

どのような課題に対して助言をすることが多いですか。また、今まで行った助言内容を可能な範囲で教えてください。

弘瀬氏 例えば、活動量が低下していることに対して、どの場面で活動を促していけば良いのかを提案しています。最近の事例では、認知症の診断があり、昼夜逆転や気力の低下がみられる元保育士の方に対して、その方の背景を活かして、デイサービスでのレクリエーションの立案に加わっていただき、一緒に企画を立案してはどうかなどと提案しました。

研修会への参加や地域ケア会議への参画に悩んでいる士会員へメッセージをお願いします。

弘瀬氏 対象の方は病院の退院が終わりではなく、これから地域での生活が再スタートされます。例えば治療を行なっていく上で、対象の方が5年後、10年後、住み慣れた地域でどんな生活を送っているか等を考えて治療を行なっていくことが大切であると私自身考えています。
職場の近くに住んでいる高齢者がどのようなことに困り、苦しんでいるのかを聞く機会があってもいいのではないのでしょうか。地域ケア会議への参画や研修会へ参加することで、退院後の生活を見据えたリハビリテーションへとより働きかけることができると思います。病院勤務や地域で働いている方関係なく、ぜひ、たくさんの方の皆さまに参画していただきたいと思います☆(^□^)☆